

管楽合奏は楽しい会？

No.39 "新世界より？"

2012年10月08日(月/祝)14時開演 深川江戸資料館小劇場

- モーツァルト (奥/1756~1791) 「嬉遊曲Kv.196f (管楽六重奏)」
(Cl)庄子/宮下 (Fg)尾作/角山 (Hn)井上/高野
- ベートーヴェン (独/1770~1827) 「ロンディーノ (管楽八重奏)」
(Ob)一宮/土屋/ (Cl)宮下/庄子 (Fg)矢吹/尾作 (Hn)井上/市原
- モーツァルト (奥/1756~1791) 「グランパルティータ(八重奏版)」
(Ob)一宮/楠原 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)阿部/矢吹 (Hn)市原/萩原

----- Intermission -----

- T.デュボア (仏/1837~1924) 「組曲第1番 (管楽八重奏)」
(Fl)信澤/岡添 (Ob)土屋 (Cl)景山/庄子 (Fg)尾作/矢吹 (Hn)高野
- バード (米/1856~1923) 「組曲(管楽十重奏)」
(Fl)岡添/信澤 (Ob)楠原/土屋 (Cl)兼氏/景山 (Fg)阿部/角山 (Hn)井上/萩原

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を設立している。2002年に法政響のOBで設立した「法政ファゴットの会」代表

(Fl)岡添 隆 (おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の研究に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。指揮もする才人。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高一のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東大管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動し2009年より団長を務めている。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、昨年より特許関係の仕事に転じた。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる昨今である。

(Ob)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤也の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に 念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛かれば喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、2012年の春より埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学～大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演。市川市文化振興財団主催の演奏会に多数出演。コンセル・ヴィヴアン第29回新人オーディション合格、同時に優秀賞を得る。これまでにオーボエを、藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に師事。室内楽を、白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏補助要員。Ensemble Le Creusetメンバー。市川市文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)兼氏規雄 (かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)庄子穂奈美 (しょうじ ほなみ)

1990年に宮城県で生をうける。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦氏に、室内楽を太田茂氏に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl)宮下節子 (みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後名古屋市内管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団で演奏している。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は家庭裁判所において夫婦や親子の不協和音の調整に動んでいる。

(Fg)阿部憲一 (あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の演奏会後アメリカに赴任し、2012年春に帰国し今回から復帰し、オケ活動も再開する。

(Fg)尾作拓郎 (おさく たくろう)

1984年、神奈川県生まれ。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団、ヴェントムジカオルケストラに所属。「法政ファゴットの会」同人

(Fg)角山由美 (かくやま よしみ)

法政二高ではブラスバンド、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。大学卒業と同時に(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)で音楽家の権利を護る仕事一筋に勤めてきたが、仕事から退いたのを機にファゴットの基本から取り組んでいきたいと、演奏する事への意欲は益々盛んである。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会?」ホームページの管理人。「法政ファゴットの会」同人

(Fg)矢吹紀子 (やぶき のりこ)初参加!

大学でオーケストラ部に所属し、ファゴットを始める。卒業後は地元のアマチュアオーケストラをベースに活動する合間に、季節限定の企画オケにも時々参加している。平日は都内で事務系の仕事に従事。

(Hr)市原秀紀 (いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後何度かの転職をするなど紆余曲折を経て現在は電池材料の研究探索をしつつ週末ホルン奏者。脇屋俊介氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に活動。それ以外にも大編成のホルンアンサンブル"Strudel Hornisten"、木管アンサンブル"Particles"を主宰してみたりしている。

(Hr)井上 華 (いのうえ はな)

東京都出身。16歳よりホルンを始める。桐朋学園大学音楽学部卒業。同大学卒業演奏会に出演。在学中に2010アルグリッチ音楽祭、ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポン2011、2012年にサイトウキネンオーケストラ、小澤塾に出演。第19回日本クラシックコンクール一般の部入賞。これまでにホルンを守山光三、猶井正幸に師事。現在桐朋学園オーケストラアカデミー研修課程在籍中。Ensemble Le Creuset(木管五重奏)メンバー。

(Hn)高野紋子 (たかの あやこ)

高校よりホルンを始め、東京薬科大学ハルモニア管弦楽団で演奏する。現在は薬剤師を生業としつつ、管弦楽団「響」に所属して演奏活動をしている。5年ほど前からホルンを白谷隆氏に師事し、より良い演奏を目指している。楽しい会には2007年以来久しぶりの参加。

(Hr)萩原裕人 (はぎわら ひろと)

東京大学音楽部管弦楽団で活躍し、その間ホルンを須山芳博氏に師事。退団後、東京アマデウス管弦楽団、柿生ブラスアンサンブル、Brass Ensemble Celeste、Strudel Hornistenに所属。大学院在学中は、登校しては研究室に引きこもる生活をしてきたが、今年から晴れて社会人となった。

管楽合奏はいわゆるブラスバンドと混同されますが、まるで違うジャンルです。前者には編曲以外ロマン派以前の曲は存在しません。とは言え、人口に膾炙している曲が多いとも言えませんが。しかし、定番以外にここには隠れた名曲佳曲が存在しています。問題は楽譜が余り出版されていない事です。理由を詳しく述べる紙幅はありませんが、間違っている楽譜を修正しながら舞台に載せています。見逃しがある事も否定出来ませんが、多少の間違いはあっても「良い曲」である事が分かれば成功と言えるし演奏する価値もあると考えております。

"管楽合奏は楽しい会?"は文字通り管楽合奏の楽しさを追求しています。またプロとアマが合奏をする事で、その間にあると思われる「最良の演奏」を狙う団体です。つまり「プロの技術で、アマチュアの心」を持った演奏が出来れば、これこそが「フィルハーモニー」だろうと考えるのです。そうした理想にどれだけ近付けるか、その判断は御来場の皆様にお任せ致しますが、最後までお楽しみ戴けたなら仕合わせに存じます。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは heckelfg@gmail.com です。

今回は2012年5月5日(日/祝)深川江戸資料館小劇場。